子どもはどのように発達していくのでしょう?ビデオを見ればそれが分かります。
育児に携わる皆様、保育や発達の相談に関わる皆様に必見です!

脳性まひの発達支援

NEW

脳性麻痺の子どもは、姿勢や運動のコントロールの難しさから、「やってみたい!」「さわってみたい!」などの興味が芽生えても思うようにできないことがあります。そのことが達成する経験を乏しくさせ、活動意欲の低下につながり、せっかく芽生えた興味や好奇心の芽を閉ざしてしまうことがあるのです。子どもの運動や手の使い方は、興味や好奇心が糸口となって学習し、発達していきます。このビデオでは、自主性に乏しかったある脳性まひの男の子が、作業療法士とのやりとりを通して、具体的な活動を実現させた過程を紹介します。

■監修：木俣 祐子 大阪府立大学 総合リハビリテーション学部 教授
■原案：加藤 雅子 神戸学院大学 総合リハビリテーション学部 講師

● 全2巻
■ VHS 各巻価格 ￥9,975（本体価格￥9,500）
■ VHS セット価格 ￥19,950（本体価格￥19,000）

VOL.1 「やってみたい!」を引き出すために 28分

子どもがチャレンジしたこと、しようとしたことを認め、適切な援助によって達成感を味わわせてあげることが「やってみたい!」という次の活動意欲につながっていきます。
このビデオでは、子どもの感情を大切にした作業療法士のかかわりで、お風呂ごっこやスタンプ遊びなどの具体的な経験を積み重ねた結果、運動発達はもとより、その体験から達成感を得て、さらに意欲を持ち、楽しいという感情を育んだ過程を紹介します。そこでついた自信は、さらなる探究心への発展につながって行きます。

VOL.2 「自分でできたよ!」につなげるために 予25分

脳性まひの子どもの日常生活動作において、お風呂とトイレ動作は自立が難しく、また体が大きくなるにつれて介助も大変になっていきます。日常生活動作の自立は、将来的にも介助者の負担軽減や本人の社会生活において非常に重要な要素です。日常生活動作の学習においては、動作の一連の流れをイメージできることが大切です。難しいところは一緒に手をとって誘導しながら援助を行うことで、活動のイメージにつながりやすくなります。このビデオでは、援助によりお風呂の出入りの経験を積み重ねた結果、一人で出入りができるようになった場面を紹介します。またトイレ動作では、姿勢のサポートは必要なものの、子どもが自分で行うことを意識し、お母さんの介助が楽になっていく様子を紹介します。

子どもの発達と支援

NEW

子どもが正常に発達しているかどうかは親にとって最も気になることですが、発達障害なのか、あるいは単なる個人差によるものかを診断することは専門家でさえも難しいことなのです。それは、子どもの行動から査定する以外にないからです。しかし、早期に子どもの行動異常に気づき、適切な支援を行うことによって、発達が促される可能性が高くなります。したがって、できるだけ早く子どもの行動異常に気づくことが重要で、そのためには、日常身近にいる親や教師、保育士による、子どもの発達の理解に基づいた観察が必要なのです。本ビデオでは、子どもの発達を理解し、適切な観察や支援を行うために、子どもの発達を「運動機能」「情動」「社会性」「ことば」「認知・思考」の5つに分けて、発達の概要、子どもの行動の観察ポイント、具体的な支援方法について、実写、実験、データ、CG等を駆使して、わかりやすく解説します。

■原案監修：医学博士 松村 京子 兵庫教育大学 教授

● 全5巻
■ VHS 各巻価格 ￥9,975（本体価格￥9,500）
■ VHS セット価格 ￥49,875（本体価格￥47,500）

VOL.1 運動機能の発達 21分

運動機能の発達の概要と、観察のポイントをわかりやすく解説します。また、発達上問題となる子どもの行動を示し、その原因を考察するとともに、具体的な支援方法を説明します。

VOL.2 情動の発達 20分

情動の発達の概要と、観察のポイントをわかりやすく解説します。また、発達上問題となる子どもの行動を示し、その原因を考察するとともに、具体的な支援方法を説明します。

VOL.3 社会性の発達 21分

社会性の発達の概要と、観察のポイントをわかりやすく解説します。また、発達上問題となる子どもの行動を示し、その原因を考察するとともに、具体的な支援方法を説明します。

VOL.4 ことばの発達 21分

ことばの発達の概要と、観察のポイントをわかりやすく解説します。また、発達上問題となる子どもの行動を示し、その原因を考察するとともに、具体的な支援方法を説明します。

VOL.5 認知・思考の発達 22分

認知・思考の発達の概要と、観察のポイントをわかりやすく解説します。また、発達上問題となる子どもの行動を示し、その原因を考察するとともに、具体的な支援方法を説明します。